

新聞を人生のパートナーに 100年時代



働く意欲のある人に七十歳までの就業機会を確保するよう、企業に努力を促す改正高年齢者雇用安定法が施行されて、四月で二年目を迎える。「七十歳現役時代」を前に人生をどう設計するか、思案する中高年世代も多いだろう。一般社団法人「定年後研究所」理事長で、キャリアコンサルタントの池口武志さん(まご)は「ポイントは五十代の活性化」と語る。

七十歳現役時代の人生設計について話す池口武志さん(東京都港区)

「50代イキイキ」が鍵

やりたいことができる 求められる

を自覚 → → → 自走人生 目指して

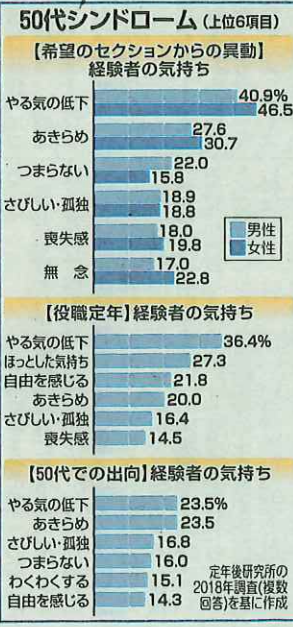
いけぐち・たけし 1963年、京都市生まれ。同志社大卒。生命保険会社勤務を経て2016年からキャリア支援の関連会社へ。21年4月から現職。桜美林大大学院でジェロントロジー(老年学)を学ぶ。

- ①人生二毛作・三毛作を意識
②気持ちをリセット
③仲間や家族を大切に
④シニアにふさわしい職務の開発
⑤柔軟な働き方の多様な選択肢
⑥広い視野での自己理解の機会

一九九一年に行った四十代以上へのアンケートでは、七割が六十五歳以降も同じ会社で働くことを理想としていました。「安定した収入が得たい」というのが主な理由でした。五十代から六十五歳までの会社への依存期間が、そのまま七十歳まで延びるだけなら大きな課題になり得ます。中高年層の主體的な意欲や生産性を高めるには、五十代で役職定年や出向、早期退職勧奨、親の介護や自分の病気といった転機を迎え、乗り越えた人たちの話を聞く、何をしたいか(WILL)、何ができるか(CAN)、何が求められているか(MUST)を言語化し、自覚したいものです。

「70歳現役時代」労使ができること

七十歳までの雇用に対する企業の課題は、生涯現役社会を迎え、企業にとって大きな課題となるのは、バブル期に大量採用した五十代社員の活性化です。人事構成上のこのマジョリティ群団の戦力化と、改正法への対応を並行して進めることが焦眉の急です。



覚えていることが共通しています。ベテランには長年培ってきた経験や知恵、人脈がある。自らの意思でやりたい仕事を選択できれば、モチベーションは高まるでしょう。自らのWILL、CAN、MUSTを明確化し、長く自分を生かせる「自走人生」を目指してもらいたい。

会社は柔軟な働き方用意を

ベテランの働くモチベーションを上げるために企業がすべきことは、自らのキャリアを自ら築く「キャリア自律」の意識を醸成することが前提になります。そのためには社外にも目を向ける機会を付与したり、人事管理を一律の年齢軸から個々の人物軸へ転換したりすると共に、柔軟な働き方を用意し、成果に応じた評価と処遇で報いることが重要です。